ひょうご経済

■経済部　TEL…078-362-7094　FAX…078-360-5511　e-mail…keiza@kobe-np.co.jp

地産地消くらぶ <95>

レストラン「山の駅」（丹波市）
店長　奥畑 和也さん（52）

地元の食材ＰＲに尽力

丹波市のＪＲ柏原駅構内で、地元食材を使ったレストラン「山の駅」を営む。神戸市須磨区の出身だが、23歳で結婚したのを機に妻の地元・丹波市にＩターンした。義父が切り盛りするレストランで働き、40代半ばで店を実質的に引き継いだ。

市商工会の青年部などに所属し、仕事の傍ら、地域の魅力を発信する恒例イベント「ＧＯＧＯフェスタ」の立ち上げにも携わった。「食を通じて丹波の良さをどう伝えたらいいか。地域の仲間らと試行錯誤してきた」

店では、イベントなどで提供し、好評だった「ご当地メニュー」を中心に提供する。イノシシ肉のチャーシューと黒豆を練り込んだ麺を合わせた「丹波猪ラーメン」（千円）、市内唯一の養豚農家が育てるブランド豚「丹波ポーク」と地元の野菜、コメを使った「豚めし」（1100円）などが人気という。「思いついたらすぐ行動に移す。そのうち分、失敗も多かったが、必死の思いでやってきた」と振り返る。

今年1月、丹波と域外の山海の幸を融通して、それぞれの食材の魅力を広めるプロジェクトを始めた。

中学の同級生が営む神戸市須磨区の鮮魚店と連携し、丹波産の農産物と瀬戸内などの海産物を互いに送る。レストランで新鮮なフグやカキ、ウナギなどを使った料理を提供し、鮮魚店にはコシヒカリや黒豆など旬の農産物が並ぶ。

一方、数年前から丹波の活性化を目指し、移住者と地元住民らの交流イベントも重ねてきた。「これからも活気のあるまちをみんなでつくっていきたい」と意気込む。

山の駅の営業時間は、午前8時～午後9時（緊急事態宣言の発令で当面は午後7時）。火曜定休。☎0795・72・4402（赤松沙和）

「豚めし」を手にする店長の奥畑和也さん＝丹波市柏原町柏原、レストラン山の駅

山田錦ドローンで播種

県農業技術センターなど試験

人手、作業時間 半減目指す

兵庫県農業技術センター（加西市）などは、ドローンを使った酒米「山田錦」の栽培試験を、主要産地である三木市口吉川町で始めた。播種（種まき）や肥料の散布などをドローンに代行させて人手や作業時間を減らし、5割以上の省力化を目指す。（山路 進）

試験は、地元農家29戸でつくる殿畑営農組合の田んぼ（32ヘクタール）で実施。ドローンを製造する中国企業の日本法人、ＸＡＧジャパン（小野市）などと共同で進める。

ドローンは、衛星利用測位システム（ＧＰＳ）で制御する高性能機。スマートフォンのアプリに田んぼの形状や種の量などを設定すると、効率的なルートを割り出した上、誤差数㌢の精度で自動航行しながら種をまく。種には事前に鉄の薄膜と農薬を施しておき、水田の底に沈めて根付きと防除を効率化する。

このほど公開された播種では、近隣農家や県関係者ら約60人が見学。ドローンに備え付けのタンクに担当者が種を入れ、スマホの操作で空中に飛び立たせた。

ドローンは、凹凸のある形状をした水田から逸脱せずに上空を飛び交い、タンク内の種が無くなると離陸地点に自動で帰還した。種を補充して再び離陸したドローンは、種が尽きた地点に舞い戻り、残るエリアの播種を続けた。

播種の公開では、同じルートで除草液の散布も披露された。全ての作業を終えるのに約30分と、田植機を使った場合の所要時間の半分以下だった。

同センターなどは、稲刈り後に収穫量や品質を確かめ、問題がなければ、ドローンを使った栽培を普及させるという。

同営農組合の山崎広治組合長（66）は「全自動で楽で重い作業に驚いた。ドローンの農業利用の可能性を感じた」と強調。同センターの牛尾昭浩主席研究員（57）は「山あいなどの狭い水田での作業にも効果が期待できる。高齢化や担い手不足の課題を解決する農法を確立するため、しっかり試験を進めたい」と話した。

酒米「山田錦」の種をまくドローン＝三木市口吉川町殿畑

農食 アグリライフ

銀座のレストラン閉店

ＪＡ全農兵庫 コロナで客減、8月に

全国農業協同組合連合会兵庫県本部（ＪＡ全農兵庫）は7日、東京・銀座の直営レストラン「神戸プレジール銀座」を8月8日で閉店すると明らかにした。神戸ビーフなどの県産食材をＰＲしてきたが、新型コロナウイルス禍に伴う外出自粛で採算が悪化。営業継続が困難と判断した。

同レストランは2016年10月、銀座の一等地にある複合商業施設「銀座プレイス」で開業。約440平方㍍の店内に鉄板カウンター、テーブルの計81席を備え、神戸ビーフのほか、「コウノトリ育むお米」や県産野菜を使ったせいろ蒸しなどを提供してきた。

18年度には1万6千人が来店し、約3割を外国人が占めた。だが、コロナ禍による1カ月以上の休業などで客足は半減。緊急事態宣言後の酒類の提供停止も集客減に追い打ちをかけた。

営業は、東京五輪の閉会式当日の8月8日昼が最後になる。神戸・三宮の「神戸プレジール」本店の営業は続ける。

ＪＡ全農兵庫の桜井裕士本部長（59）は「コロナ禍の先は不透明だが、本店でのＰＲを重ね、いつか東京での再起を図りたい」とした。（山路 進）

「地域情報消化し還元」

日銀神戸 山崎新支店長が会見

記者会見する日銀神戸支店の山崎真人支店長（手前）と長江敬前支店長＝神戸市中央区京町（撮影・山崎 竜）

日銀神戸支店（神戸市中央区）の新旧支店長による会見が7日、開かれ、山崎真人新支店長（51）は「どんな時でも安心、安全な決済手段であるお金をしっかり回すのが役目。災害時でも『想定外』とならないよう、訓練を含めて対応したい」と抱負を述べた。

山崎氏は北海道釧路市出身。1992年に北海道大法学部を卒業して日銀に入り、釧路支店長、業務局参事役を経て、今月1日付で就任した。

東京以西での勤務は初めてという。釧路支店長時代の経験を踏まえ、「地域の皆さんが日銀を信頼してご提供いただく情報は公共財。しっかり消化し、講演会や書き物の形で社会に還元して地域の金融情報が集まるハブの役割を果たしたい」と述べた。

同席した長江前支店長（55）は「コロナ禍で厳しい経済環境だったが、県内の経営者や金融機関トップの方々には誠実に意見交換していただき、感謝している」と、1年3カ月の在任期間を振り返った。

一方、日銀神戸支店が発表した兵庫県内の金融経済概況は「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、持ち直しの動きは緩慢となっている」と、基調判断を2カ月連続で据え置いた。（高見雄樹）

県内倒産23件 9カ月ぶり増

5月

帝国データバンク神戸支店（神戸市中央区）が7日までまとめた兵庫県内の5月の企業倒産件数（負債1千万円以上、法的整理のみ）は前年同月比187・5%増の23件、負債総額は同52・8%増の29億6400万円だった。件数は前年同月比では9カ月ぶりの増加となった。

業種別は「建設業」「サービス業」が各6件で最多。「卸売業」「小売業」が各4件で続いた。販売不振の不況型が18件で、新型コロナウイルス関連は中古車卸売業や不動産仲介業など計4件あった。

地区別は播磨地区が10件と最多。神戸地区6件、阪神地区5件などが続いた。

同支店は「昨年5月が少なかったため前年同月比は増加しているが、コロナ禍の支援策で減少傾向は続いている」とする。

一方、東京商工リサーチ神戸支店（同）がまとめた5月の倒産件数（負債1千万円以上）は前年同月比110%増の21件、負債総額は同35・4%増の26億6100万円だった。（赤松沙和）

情報BOX

◆オンラインセミナー「中小企業の労務問題」　7月7日、9月15日、11月4日のいずれも午後3～4時、ビデオ会議アプリ「Ｚｏｏｍ（ズーム）」で。弁護士法人法律事務所「瀬合パートナーズ」（神戸市中央区）の主催。所定の申込用紙を同事務所にファクス（078・382・3530）で送る。無料。同事務所☎078・382・3531　各回のテーマは次の通り。7月7日＝テレワーク・時差出勤導入、解雇・希望退職の実務▽9月15日＝労働条件・給与体系変更▽11月4日＝同一労働同一賃金の制度設計から自社への落とし込みまで

新株予約　兵庫県内企業の株価